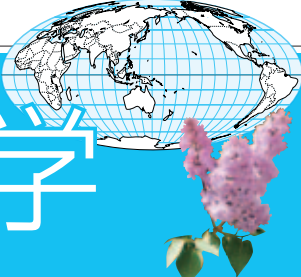


学報

学校法人 北海学園
北海商科大学
アジアの時代に、アジアを学ぶ。
Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.14
2013.6.20
発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL:011-841-1161(代)
FAX:011-824-0801
http://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

掲載記事

学部長挨拶	2面
平成24年度卒業式	2面
就職特集①平成24年度就職状況	2・3面
大学院後期博士課程開設	3面
2年次所属学科決定	3面
平成25年度入試結果概況	3面
保護者説明会開催	3面
就職特集②就職座談会	4面
平成24年度交換留学生修了式	5面
高校生懸賞作文コンテスト	5面
成績優秀者表彰式	5面
交換留学生歓迎会開催	5面
留学だより、交換留学生紹介	5面
研究のいま「北海道地域観光学会設立」	6面
ゼミ訪問 西川博史コマース研究ゼミナール	6面
[フォトギャラリー]サークルPR・体育祭速報	7面
サークル一覧、学生相談室ニュースレター[連載]	7面
新任教員・交換教員紹介	8面
スピーチコンテスト・語学検定結果報告	8面
公開講座開催	8面
新刊紹介、行事予定	8面



写真上:レスブリッジ大学研修学生の日本学研修、
下:茶道体験、右:学長主催レセプション記念写真

Topics 1 国際交流

OECD調査によると、2009年の世界の留学生数は380万人と増加傾向にあるのに対し、日本は停滞傾向にあると言われています。そのような中、本学では前年度も57名の日本人学生が留学を果たしました。そして多くの学生が、異文化への適応能力がついた、友人ができたなど、語学力の向上のみならず人間の幅が広がったなど、留学の効果を実感しています。

今年度も交流協定校である中国の山東大学威海分校、煙台大学、韓国の大田大学校、カナダのレスブリッジ大学への派遣が予定されています。国際交流センターでは、学生が自ら進んで幅広く交流を広げていけるように支援をしていきたいと考えております。

5月30日より、カナダレスブリッジ大学の研修学生を、北海学園大学と合同で受け入れました。同大学との交流は1981年から30余年の歴史があります。学生の交換事業は、北海商科大学としては、2007年・2009年に続いたの3回目の受け入れとなりました。学生12名と引率者2名は、最初に本学北見キャンパスで研修を受け、6月3日からは連日豊平キャンパスで日本語研修と日本学研修を意欲的に受講し、かたわら協力学生とよさこいソーラン祭りや北海道神宮例大祭の神輿（みこし）行列などを見学しました。

一行は6月19日に、名残を惜しみつつ離道しました。（加藤）



Topics 2 平成25年度入学式挙行、新たに196名を迎える

平成25(2013)年度入学式が4月3日、札幌パークホテルにて挙行されました。今年度は大学院商学研究科博士後期課程2名、修士課程2名、商学部生177名、交換留学生15名、合計196名の新生・留学生を迎えました。学長の式辞に続いて新生宣誓、学部長・研究科長・センター長の紹介（次頁に掲載）が行なわれました。

「アジアの時代にアジアを学ぶ」という本学の教育理念は広く知られるようになり、その理念に学ぶとうする志を持った新生が本年も数多く入学しました。また、中国・韓国からの交換留学生の皆さんも、本学での1年間の留学をスタートさせました。（森本正夫学長の式辞を以下に掲載します。）

【森本正夫学長式辞】

北国の春のこの佳き日に、北海学園の理事・監事・役員の方々、また設置校の北海学園大学の学長 木村和範先生、北海高等学校の校長 山崎省一先生、北海学園札幌高等学校の校長 大久保正先生をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席をいただき、ここに北海商科大学の新生176名と交流校である中国山東大学から6名、中国煙台大学から3名、韓国大田大学校から6名の留学生を迎えました。

また、東アジアの時代を見据え、流通、観光、経営分野の高度な専門的知識・能力を備えた人材育成を目指し、今年度開設しました大学院商学研究科博士後期課程2名、修士課程2名、合わせて196名の入学式を、保護者、関係者の皆様とともに挙行できますことは、私ども教職員一同が深く喜びとするところであります。

東京以北で最大の都市、人口190万人を擁する札幌市の豊平区で、地下鉄に直結した恵まれた都市環境のもとに開学して八年目を迎えました。この北海商科大学の新たな歴史は、きょう入学された皆さんが、築き上げて行く

ものです。教職員一同も、優れた成績で入学した皆さんと独自の校風を作っていくことを楽しみにしております

北海商科大学は新しい大学です。母体である北海学園の歴史は古く、創立は128年前の明治18年にさかのぼります。現在、北海学園は、北海学園大学と大学院のほか、北海道高校と北海学園札幌高校を設置しており、1万2千名を有する学生生徒が日夜勉学に励み、また課外活動に精を出しています。学園全体の卒業生は15万名ほどにもなり、道内はもとより、全国各地、さらに海外でも活躍しております。きょう皆さんは、その北海学園の仲間として迎えられたわけです。

新生の皆さんは、新しいアジアの時代のグローバル化を見据えた言語・文化・社会及び国際関係を中心に学び幅広い問題意識から商取り引きやビジネス活動に欠かせない基本となる知識を広く深く学び、経済学部や経営学部とはまた違った、実践教育にも力を入れて展開しております。

特に最初は、皆さんの将来に役に立つ外



平成25年度入学式 新生代表による宣誓

国語の教育と異文化の理解に力を入れています。

本学の海外の教育研修交流姉妹大学は、北海道の姉妹州のカナダのアルバータ州南部にあり、32年の交流実績があるレスブリッジ大学、中国では沿岸部の風光明媚な山東半島にある、山東大学威海分校と煙台大学、韓国では札幌市と姉妹都市になりました、昔の百濟王国の地にある大田広域市の大田大学校がすでにそれぞれ皆さんを受け入れる準備を整えています。皆さんは、アジアの時代にアジアの若者たちと新しい大学で学ぶことになるわけです。

さて、大学とは広く知識を学び、真理を探究するところです。基礎的な教育もあれば専門的な研究もありますが、総じて、教育研究の機関として、人類の学問的文化的遺産を、次の世代に伝達し継承するという、公共性の高い社会的使命を負っています。そうした大学で学ぶことは人格形成にもつながります。そのため本学では多彩なカリキュラムを用意しております。

特に、少人数教育を重視し、研究と教育を統合する人材育成プログラムを展開しています。また、語学、情報管理、観光、貿易通商、社会行政などの分野で高度な技能と資格の取得を目指すなど、学問を通して実践的教育を実現して行くカリキュラムを特徴としております。

私は常々、大学教育の真髄は、学問を通じての、教師と学生との人間的一体化であると思っています。ゼミナールを通じての、教授と学生との学問に関するやり取りを通じて、皆さんの人格形成がなされるものと期待しております。歴史ある北海学園の、恵まれた環境の中で、学生生活を大切に、課外活動や社会活動にも積極的に取り組んでいただきたいと願っております。

新生の皆さんにおかれましては、きょうの入学式の喜びを忘れず、これからの学生生活に反映させてください。明日への飛躍を確かなものとするよう、皆さんが健康に留意し、精一杯努力することを期待して学長の式辞といたします。

Topics 3 平成25年度 学部長挨拶

■商学部長 阿部 秀明 教授



札幌キャンパスでの再出発から8年目、「アジアの時代にアジアを学ぶ」を教育目標に掲げる本学は、その特色ある教育理念により、これまでも増して社会的認知を受けるようになってきました。そうしたこれまでの学部教育を基礎に平成22年度開設した大学院商学研究科ビジネス専攻修士課程（定員5名）は、今年3月にワンサイクルを経て、7名の卒業生を輩出しました。今年は更なる高度な専門教育研究体制整備のため博士後期課程（定員2名）が認可され、4月に開設したことで、本学の存在意義は一層大きくなってきていると考えています。

グローバル化や少子高齢社会が進展する中で、今後も国際的な評価にも堪え得る知的能力を身に付けた卒業生を数多く輩出することが本学の使命と考えています。そのためには、教職員が一丸となって教育研究内容の多様化と体系化を進め、時代の要請に応え得る大学を目指したいと思います。今後とも本学へのご理解と一層のご支援ご鞭撻をお願い致します。

平成25年度 研究科長・学部長・センター長

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| ■大学院研究科長
西川 博史 教授 | ■入試・広報センター長
堂徳 将人 教授 |
| ■商学部長
阿部 秀明 教授 | ■キャリア支援センター長
菊地 均 教授 |
| ■教務センター長
柳川 博 教授 | ■学生支援センター長
田辺 隆司 教授 |
| ■学術発展センター長
伊藤 昭男 教授 | ■国際交流センター長
加藤 由起子 教授 |

Topics 4 平成24年度卒業証書・学位記授与式举行

平成24(2012)年度卒業証書・学位記授与式が3月18日、札幌パークホテルにて举行されました。平成24年度修士課程修了生7名、商学部卒業生146名（うち商学科106名、観光産業学科40名）に卒業証書・学位記が授与されました。

卒業生、修了生は教職員やご来賓、

家族が多数見守る中、新たに社会へと学窓を巣立ちました。

卒業式の後、同所にて「卒業生を送る会」が催されました。森本正夫学長、本学同窓会田口茂春会長が祝辞を述べられ、会場では卒業生と教職員が和やかな雰囲気の中、最後の交流に有意義な時間を過ごしました。



写真上：卒業全体写真、写真左中・左下・右中：卒業証書・学位記授与式、写真右下：送る会

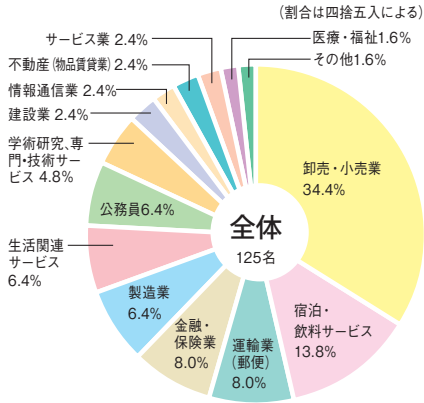
就職特集① 女子学生就職率100%！



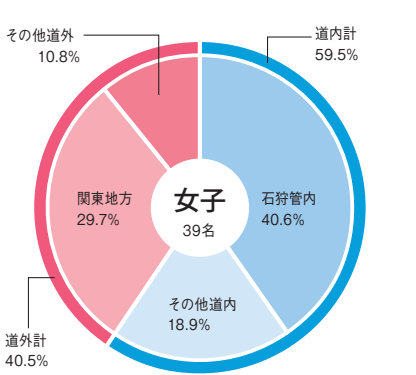
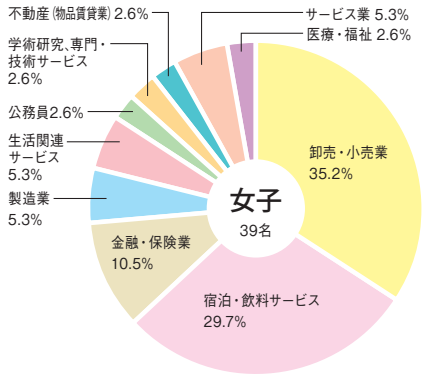
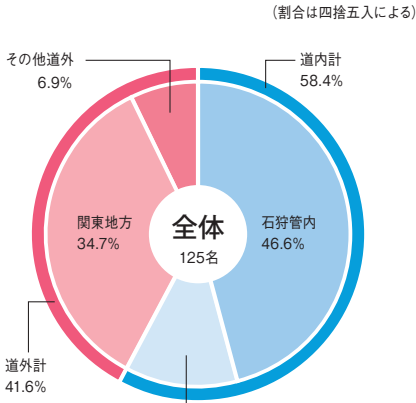
大学教育の質的転換を図る改革の一環として、大学生の就職活動の開始時期にも見直しの動きが生じています。学生にとっては社会へ巣立つための、大事な岐路での「就活」。景気回復に期待感が増し、全国の大卒就職率は上昇しています。北海道における今年3月の大卒就職率も88.2%（前年同期比2.1ポイント増・北海道労働局発表）と2年連続で上昇しましたが、全国に比べると5.7ポイント低くなっています。

そのような全国的には厳しい北海道の雇用情勢の中にあって、本学卒業生（平成24年度）は94.7%という、昨年に引き続き好結果を残しました。

2013年卒/業種別就職状況



2013年卒/本社所在地別就職状況



Report 1 大学院博士後期課程開設

本学の大学院修士課程設置から平成25年3月で完成年度を迎えました。院生、教職員の努力によって、設置で掲げた当初の目標は、不十分ではあるが達成することができました。そして次のステップとして祈願の大学院博士後期課程が開学されました。それは、修士課程の完成年度の翌年度である最速の開設でした。開学以来本学は、21世紀のアジア経済の発展の原動力となる日中韓を核とする東北アジアとサプライチェーンとしての東南アジア（ASEAN）に着目し、この一体化した東アジアを基礎とする調査・研究を進めてきました。今回設置された博士後期課程は、若い東アジアの研究者の育成と、グローバル化が進む東アジア諸国の人材育成を目的としています。科目群の枠組みは、「グローバルビジネス研究科目」、「コマース・ビジネス

関連研究科目」、「観光産業振興戦略関連研究科目」、「研究関連特殊科目」であります。またこの科目群に対応する「交通・物流」、「マーケティング・流通システム」、「観光振興」に特化した東アジアの課題解決を目指した、産学官の協働研究も先行しています。こうした状況の中募集が短期に関わらず、設置趣旨に添い、国内外各1名の院生が入学しました。また充実した研究環境を背景に、院生による国内外の学会研究発表、査読論文の提出など実績を挙げてきました。こうした実績を生かし自他とも認める大学院を目指し、日々、研鑽に努めています。（中鉢）



大学院研究科の講義

厳しい雇用環境の中、高い就職決定率を達成。

特に女子学生は、100%という特筆すべき就職決定率に達し、後に続く在学生には力強い励ましとなりました。

さまざまな大学評価情報誌などでも、本学への評価は高まっています。

「就職特集」はこの就職データと『100%女子』の達成体験談を紹介します。

学生みなさん！ぜひこの特集をじっくりと読み解き、浮き足立つことなく有意義な「勉学」「課外活動」「就活」に取り組んでください。



● 2013年3月現在

● 2012年3月卒

● 2011年3月卒

● 2010年3月卒

● 就職決定率94.5%

● 就職決定率82.2%

● 就職決定率86.3%

(女子決定率100%)

(女子決定率83.3%)

(女子決定率95.2%)

● 就職決定率94.7%

● 就職決定率100%

● 就職決定率94.5%

● 就職決定率82.2%

● 就職決定率86.3%

(女子決定率100%)

(女子決定率83.3%)

(女子決定率95.2%)

写真上・下：平成24年8月9日に札幌コンベンションセンターで行われた、北海学園大学との合同企業説明会

平成24年度就職状況について ● キャリア支援センター長 菊地 均 教授

デフレからの脱却を目指した安倍政権の経済政策「アベノミクス」の効果で円安や株高が進み、日本経済に明るさが広がりつつあるようだが、道内企業が採用人数を大幅に増やすにはもう少し時間がかかると思われます。

さて本学の就職状況は、就職希望者のうち94.7%の就職率となりました。特徴的なことは、金融・証券、サービスなどの業種で女子学生の大きな健闘により、昨年に引き続き女子学生100%の就職率を維持できたことです。

政府は経済団体と協議し、大学卒業予定者の就職活動の開始時期を4月に改めるようですが、学生諸君においては、開始時期のいかに問わず、自分の進路について早くから真剣に考え、就職活動の準備を怠らないことが肝要です。キャリア支援センターとしては時代に対応した体制を整え、就職支援を一層強化してまいります。

Report 2 平成25年度 入試結果概況

全国的に進行する少子化等に伴う大学受験人口の減少は深刻化し、多くの大学において定員確保が課題となっています。そうした状況にあって、本学では一般入試、センター試験利用入試、推薦入試を合わせた志願者が417名となり、入学定員150名に対する倍率は2.8倍でした。

一般入試では前年度の手続率53%に続き54%と高い値を維持しました。これは、例年の手続率（一昨年度46%）と比べ2年連続での高い値になります。その結果、入学者は前年度の174名から177名へと増加しました。こうした手続率の上昇から、受験者の本学への志望意識の高まりを読み取ることができます。

センター試験利用入試では、志願者は110名と昨年と比べ減少しましたが、「地歴」「公民」から各2科目の選択

を可能とした結果、社会科学的な学問領域への基礎学力と関心を有する学生を募ることができたと思います。

推薦入試では、指定校推薦において、43名の志願者を得ました。また、昨年度から実施した公募推薦を継続して、「アジアの時代にアジアを学ぶ」という本学のアドミッションポリシーに共感し、人物・学業ともに優秀でグローバルに活躍する人材を広く求めた結果、志願者は昨年度の17名から19名へと増加しました。

入学生に実施するアンケートでは、例年「アジアについて学べる」ことや「外国語の授業」への期待等が多く見られますが、本年度はこれらに加え、「資格取得」や「就職・進路実現」への取り組みなどへの期待が多くなっており、入学者が本学の教学ポリシーに共感し、高い就学意欲を有することが

2012年度 主な就職先 ※（ ）は内女子数

企業・団体名(敬称略・順不動)	2013年卒	過去3年間	企業・団体名(敬称略・順不動)	2013年卒	過去3年間
北洋銀行	2 (1)	1	産経海外旅行	0	1 (1)
北海道銀行	0	1 (1)	プリンスホテル	0	1 (1)
ニトリ	0	1	ホテルモントレ	0	1 (1)
セイコーマート	0	3	北海道開発局	1	0
JR北海道	5	6 (1)	国税専門官	1	1
北海道労働金庫	0	1	札幌市役所	1	0
ロイズ	1	0	札幌市消防	1	0
サッポロドラッグストアー	0	2 (1)	北海道警察	0	5 (1)
ヤマチユニテッドグループ	0	1	道立北海道留萌高校	0	1 (1)
JTB北海道	0	1 (1)	苫小牧商業高校(私立高専)	0	2 (1)
ゆうちょ銀行	0	1	アソギ	1	0
野村證券	1 (1)	1 (1)	郵便局	3	1
S M B Cフレンド証券	0	1 (1)	札幌通運	0	1 (1)
上光証券	0	1	栗林商会	0	1
北海信用金庫	0	1	ほくやく・竹山ホールディングス	2	3 (1)
空知信用金庫	0	2 (2)	ムトウ	0	2
遠軽信用金庫	1	0	モロオ	0	1
稚内信用金庫	1	0	あらた	1	1 (1)
北央信用組合	2 (1)	1	北海道コカ・コーラボトリング	0	2
北門信用金庫	0	1	イオン北海道	0	1
十勝信用組合	0	2 (1)	札幌丸井三越	0	2
網走信用金庫	0	1 (1)	ツルハ	1	0
北海道信用漁業協同組合連合会	0	1 (1)	アインファーマシーズ	3 (2)	0
日本年金機構	0	1	コープさっぽろ	1	2
中道リース	0	1	ドン・キホーテ	1	1
カナモト	0	1	ダイイチ	3 (1)	2
道新サービスセンター	0	1 (1)	イオンリテール	1	0
リクルート	0	1	マックスバリュ北海道	1 (1)	1
H. I. S.	3	2 (1)	セブーン・イレブン・ジャパン	1	1
J T B北海道	0	1 (1)	エービーシー・マート	1 (1)	0
トップツアー	0	1	デンコードー	0	2 (2)

Report 3 2年次所属学科決定

平成23年度入試から学部入試に変更したことに伴い、2年次に初めて実施する所属学科の決定が終了しました。学生の希望を最大限に考慮し、各学科の定員を勘案して極端に志望が偏った場合は、成績を基準として選考を行うことを周知しながら所属学科決定までの作業を実施しました。3月下旬の新2年次ガイダンスでは所属学科決定までのスケジュールを確認し、両学科の概要説明と専門ゼミナールの内容紹介等を実施しました。4月上旬から5月中旬にかけてゼミナール見学希望届を受け付け、6月第1週から第4週にわたり両学科のゼミナール見学を実施し、所属学科選択の参考にしてもらいました。7月17日に所属学科決定に係る最終ガイダンスを実施し、同月19日までに志望学科届の提出を求めました。2年次生154名より、商学科

103名、観光産業学科50名の所属が決定し、9月14日の2年次ガイダンスの際に発表しました。併せて、希望通り所属学科が決定されなかった学生については、今後の学習計画等について教務センターが相談する体制を整え、スムーズな所属決定が終了しました。今年度は5月21日の第1回学科選択制度説明会を皮切りに、ゼミナール見学会、第2回学科選択説明会、志望学科届の提出へと順次作業を進めていきます。

(柳川)



平成24年度の所属学科選択ガイダンス

窺われ、まさに、学びの相乗効果が生じると期待されます。

次年度入試では18歳人口の大幅減少が懸念されますが、本学では一般入試をこれまでの2科目から3科目入試

に改め、出願者の能力・適正の客観的で多面的な把握に努めるなど、さらなる入試制度の改善に努めて参ります。

(堂徳)

Report 4 2年次・3年次保護者説明会を開催

平成25年度2年次・3年次保護者説明会が、本学において5月25日、6月1日と順次開催されました。

本学では、日頃の教育内容、学生支援の取り組みなどを保護者の方々に知っていただくために、毎年学年単位でおこなっているものです。両日も多くの保護者の方が出席されました。

阿部秀明商学部長からは大学院設置、キャリア支援などを中心に多岐にわたった内容となり、特に好結果を残した平成24年度の実績や本学への対外的高評価についての説明がありました。



5月25日に行われた2年次保護者説明会について各センター長から、平成25年度入試結果、カリキュラム、就職支援、国際交流、学生生活支援などが話されました。特に3年次は就職活動が近づくことから、皆さん熱心に耳を傾けられていました。

就職特集② 就職OG座談会～自分を磨く、能力を高める努力を!～

女子学生就職率100%を達成した本学OG達。現在は企業の一員として歩み出しました。後輩へのアドバイスとして、貴重な就職体験談を語っていただきました。



司会
水野 俊平 教授

皆さんはそれぞれ実りある就職活動で内定を勝ち取られ、就職に結びつけたのですが、何が勝因だったと思いますか。

西道：まず明るい笑顔と、あとは語学ができるということ。あとは積極性だったかなと思います。特に韓国語は他の大学では本格的には学べないので。

阿部：大学での留学の経験が勝因だったと思います。中国に留学したことのある学生が少なかったからです。だから、面接で個人個人に対する質問があったときに面接官の方々に印象付けられるようなポイントがあったと思います。志望業種も観光業や航空会社に絞り、語学や留学の面で度胸をつけてきたことをPRして乗り越えました。

下条：やっぱり語学ができることだったかな。現在の勤務地が観光地である小樽なので、毎日

のように中国人・韓国人が来ます。だから、語学ができる人が求められていたと思います。

池端：受かるつもりで受けなかったことでしょうか。私の場合、2次面接で英語の質問があって、答えられなかったので、「日本語で答えてください」「もう、結構です」とまで言われたんです。でも最後まで笑顔で面接を楽しみました。もう、だめだなと思っていたら何と最終面接に進めたんです。最後まで楽しみながら面接に臨めたことが勝因かもしれません。あと、やっぱり語学（韓国語）が本格的にできる人が少ないので、求められている人材だったということでしょうか。

本学での学びは就職活動や内定を勝ち取るのに役立ちましたか。

池端：役に立ったのは取得した資格でした。在学中に資格を7つも取ったんですよ。ハングル検定、韓国語検定、ホームヘルパー2級（接客に生かせるかなと思って）、秘書検定2級、運転免許、ワード・エクセルなどのパソコンなどの検定（スペシャリスト）など。それが「やればできる」という自信の裏付けになりました。



●池端 令子さん
株式会社プリンスホテル
2011年観光産業学科卒
(旧札幌篠路高校出身)

下条：役に立ったのはやっぱりパソコンの授業でしたね。エクセル、パワーポイントのスペシャリストの資格はアピールポイントになりました。あと中国語・韓国語や簿記（全経2級、ただし高校時代に取得）も。そういう土台があっての内定だったと思います。

西道：就職したらエクセルやワードは必須ですから、やっぱりパソコン関係の検定合格が役に立ったと思います。



●西道 結香さん
ホテルモントレ
エーデルホフ札幌
2011年観光産業学科卒
(江別高校出身)

就職支援のうちで役に立ったと思うものは何でしたか。

西道：就職支援の職員の方がやってくださった個別面談や面接練習でした。「緊張しすぎないように」「明瞭に話すこと」「自分の言いたいことをまとめて簡潔に話したほうがいい」など貴重なアドバイスをいただきました。面接の練習を重ねてうまくできるようになりました。本番では緊張はしましたが、言いたいことを自分の中でまとめて、相手に伝わりやすく言えるようになりました。

阿部：一番には学生の支援をしてくれている職員の方にエントリーシートや履歴書の書き方、面接の練習を教えていただいたことです。面接の練習を何回か受けて、どもらず、詰まらず、どうやってスムーズに自分の言葉で話せるかと言う訓練ができたと思います。また、物流の会



2012年企業説明会会場
社に面接に行くときには、その分野でのエキスパートでいらっしゃるゼミの先生にちょっとしたアドバイスをいただきました。あと、ヤング・ハローワークにも登録しました。そこでは添削や面接の練習などのサービスもやっているの。他大学の就活のサークルに入って、合宿で他の大学の学生数十人と集まって面接の練習やディベートの練習もしました。瞬発的な質問に対して、いかに起承転結が含まれた答えを返せるかという練習をしてみて非常に効果がありました。就活で頑張っている友達存在にも励みになりました。

下条：大学の就職支援サイトである「ミナトコム」を見ていました。就活の情報や求人情報はあります。あと就職支援の職員の方から「こういう求人があるよ」と声をかけていただきました。

池端：ゼミの先生が交通関係では第一人者で、航空会社を受けた時にはエントリーシートの書き方や面接の受け方を何回も練習させてくださいました。

面接を受けるにあたって特別な準備はしましたか。

西道：やっぱり女の子は外見を見られることも多いと思うので、清潔感を感じさせ、笑顔を絶やさないことが大事だと思います。面接官はいかに自分に注目させるかということが重要ですから。エントリーシートの字や書式なども同じです。あと私の場合、面接に韓国人のスタッフが出てきたら困るなと思って韓国語の答えをちょっと考えておいたのと、ホテルの業界事情などを調べていきました。

阿部：物流についての本を読んで、よく出ている言葉を調べたり、物流が専門のゼミの先生から教えていただいたりしました。志望する会社の様々な部署についても調べておいて、自分が配属されたい部署をアピールしたり。面接では他の学生がいろんなキャラクターで売り込みをかけるので、私はとりあえず留学していた時の体験談でアピールしました。あと、面接当日の朝刊を見てニュースを確認したり、業界や会社にまつわるちょっとした情報も入れておくのいいと思います。どんな質問が出てくるかわからないので。とりあえず一問一答がきちんとできるように、想定問答集みたいなものを作って話せるように練習していました。



●阿部 萌子さん
札幌通運株式会社支社
【営業本部営業推進部所属】
2011年観光産業学科卒
(札幌東商業高校出身)

下条：特に準備はせずに、ありのままの自分を出せるようにしました。格好つけて話そうとするんじゃなくて、言おうとすることを自然に話

せるようにしたほうがいいと思います。頭の中に言いたいことを文章として入れておかないほうがいいかもしれません。キーワードだけを頭に入れておいて、それをその時々自分の言葉で表現するのがいいでしょう。なぜなら、本番で台本が飛んでしまったらパニックになるからです。あと表情、特に笑顔が大切だと思います。



●下条 里美さん
株式会社オルゴール堂
2010年商学科卒
(札幌東商業高校出身)

池端：面接の準備はけっこう張り切りました。なんだかんだ言って、面接ってやっぱり第一印象です。面接官には一度しか会えないじゃないですか。4、50代の面接官が見てもおかしくないように、清潔感のある身だしなみ、きちんとした言葉遣いを心がけました。あと、履歴書の写真も納得がいくまで取り直しました。

いま就活に頑張っている後輩にアドバイスをお願いします。

下条：自分が納得いくまで就職活動したほうがいい。だけど、行きたい企業・業界だけにこだわらず、選り好みせずに。希望と若干違うところでも、入ってやってみれば展望が開けます。最初から決めつけないでトライしてほしいです。本命の業種でも、入ったら何か違ったということもあるので、あまり就活の段階からこだわりすぎないでほしい。

池端：就職活動も重要ですが、それだけではつまらないです。自分を磨く努力、自分の能力を高める努力に目を向ければ楽しい就職活動になるのではないかと思います。私は学校でもうちょっと勉強したかった。就職すると勉強する時間がないし、大学にいる間からできることってあるじゃないですか。ちょっと後悔しています。

阿部：就職活動は人生に1回しかできないことです。正社員としてのちゃんとした入り口を与えてもらうということは、今しか経験できないことの一つだと思います。嫌がらずにいい経験を積むと思って、若さを出し惜しみせず全力で就活に臨んでほしいです。

——ありがとうございました。

入学後、生徒を伸ばしてくれる大学【地域別/北海道・東北地区】

順位	大学名(敬称略)	所在地	ポイント
1	東北大	宮城	246
2	国際教養大	秋田	147
3	北海道大	北海道	40
4	会津大	福島	15
5	山形大	山形	9
6	福島大	福島	5
	公立はこだて未来大	北海道	5
	札幌医科大	北海道	5
	宮城大	宮城	5
	東北公益文科大	山形	5
11	宮城教育大	宮城	4
	秋田県立大	秋田	4
13	北海商科大	北海道	3
14	岩手大	岩手	1

※各図表データは、大学通信出版「大学探しランキングブック2013」より転載。全国の高等学校進路指導教諭（回答のあった637校）へのアンケート調査を基にした大学の第三者評価の結果。



留学だより

現在、留学中の学生から便りが届きました。

●川尻 寛貴（商学科3年）

皆さんこんにちは。現在私は山東大学威海分校に留学中です。今年の2月に来てからもう3ヵ月経ちました。中国の発展は目覚ましく、ロッテマートが街にできたりと1年生の時に来た時と、街の雰囲気が様変わりしています。

3ヵ月の中で、交流会をしたり、青島に旅行したりといろいろな経験をしているように感じています。授業では毎週月曜日にスピーチを発表する授業があります。最初は自分の思った通りにスピーチなどが出来なく、とても苦労していましたが最近はみんなの前でのス

ピーチが楽しくなりました。

後期になると、スポーツの大会や、行事など増えてくると思うので積極的に行動できるように頑張りたいと思います。



留学先の学友と（右端が川尻君）

●及川 涼平（商学科3年）

こんにちは！ 私は商学科3年生の及川涼平です。現在、山東大学威海分校に留学中です。1年生の時に約半年間中国で勉強し、もっと中国語のレベルを上げたいと思い約1年間の留学へ行くことを決めました。

大学での生活は同じ教室の韓国人の留学生と一緒に日々授業を受けています。授業の他に、私は中国で初めてスピーチコンテストに出場しました。入賞は出来ませんでしたがい経験になり、その入賞できなかった悔しさから、より一層勉学に励まなければならないと思いました！ また、バレーボールの試合にも出場し、チームのみんなと勝利した時の喜びを分かち合いました！そして、バレーボー



バレーボールの試合に出場した時のチームメンバーと（左から4人目が及川君）

ルを通じてたくさんの学生と交流することができました！

この中国留学という貴重な機会を無駄にしないために、私は残りの約半年間の留学生生活、積極的に勉学に励みたいと思います！

Topics 5 平成24年度 交換留学生修了式

2013年2月20日に交換留学生修了式が行なわれました。中国と韓国の協定校である山東大学威海校、煙台大学各6名、大田大学校4名の交換留学生は本学で留学生プログラムの他、日本人学生と一緒にゼミナールや講義を受講してきました。その間、札幌市のまちづくりのためのワールドカフェや環境ボランティア、八剣山さくらんぼ祭りのボランティアなどに参加、他大学の留学生や日本人学生、そして札幌市民との交流に積極的に交流しています。



当日行なわれた留学成果報告会には、帰国した派遣日本人学生も参加、それぞれの留学成果を発表しました。

(加藤)



写真上：交換留学生修了式、写真下：修了式後の全体写真

Topics 6 成績優秀学生表彰式

本学では、大学の教育方針に鑑み、教育振興を目的とした教育振興資金を設置し、これまでも学生の海外留学及



学長を囲んで表彰学生のみなさん

び対外活動（弁論大会やスピーチコンテストなど）を奨励してきました。今回は、こうした取組を学業優秀学生、課外活動優秀学生に拡大し、2年生・3年生を対象とした学業優秀学生への表彰（奨励金を含め各学年1位～3位）を行いました。

今後も奨励金等を通じて、本学学生の学習向上や対外活動等に対する大きなインセンティブ効果を期待し支援してまいりたいと思います。

(阿部)

Topics 7 国際学生交流会開催

4月13日に地下1階自由学習コーナーで、海外協定校からの客員教授、学部・大学院への留学生と日本人学生及び教職員との交流会が開かれました。本年度は、韓国大田大学校から6名、中国煙台大学と山東大学威海分校からは大学院生を含め計10名を受け入れています。

当日は86名を超える参加があり、韓国語サークルの千葉さんの司会進行で、交換教授や留学生、国際交流センター教員の紹介などが行なわれ、終始笑顔が絶えない楽しい会となりました。

(加藤)



写真上から、自己紹介する山東大学威海分校からの留学生、参加者全員で集合写真

●塚本 智明（商学科3年）
留学生活で得たもの

私は今、黒竜江省にある黒竜江大学で1年半ほど前から勉強しています。最初は、1人での留学ということもあり、とても緊張した日々を送っていました。しかし徐々に生活にも慣れ、中国人の友人や同じく中国語を学びに来た各国の留学生のクラスメイトと親しくなっていくうちに、そのような緊張も薄れていき、今ではとても楽しい日々を過ごしています。今は、中国語を勉強しつつ、中国人の学生に混じり経済学部の学生として、国際貿易を学んでいます。

留学期間が残すところ残り数ヶ月となり、これまでの留学を振り返り、一番に思い浮かぶ

のは、やはり感謝の気持ちです。この留学期間中に、私は多くの人たちに助けられてきました。この留学で築いた、多くのクラスメイト、友人達との信頼関係を、一生の宝物として大切にしていきたいです。



友人達と大学内でのスケート(右から2人目が塚本君)

Report 5 高校生懸賞作文コンテスト

北海商科大学主催第1回高校生懸賞作文の表彰式を2013年3月23日(土)に開催しました。この懸賞作文は、高校生の鋭い観察眼で現代の市場、マーケティングに関心を持って頂くことを趣旨として①「日本も含めアジアの人たちに広く薦めたい私のまちの観光スポット」②「日本も含めアジアの人たちに広く薦めたい私のまちのグルメ」③「日本も含めアジアの人たちに広く薦めたい私のまちのお土産」のテーマで募集しました。

初めての試みでしたが、道内各地より29編の応募がありました。厳正なる審査の結果、入賞者は下記の通り決定しま

した。
表彰式では森本学長から入賞者に表彰状、副賞が手渡されました。表彰式のと、審査講評と懇親会を行いました。
(橋元)

順位	氏名(敬称略)	在学校・学年
1位	金谷 修斗	北海道美幌高校2年
2位	長山 みのり	北海道浦河高校3年
	高野 円花	北海道富良野高校1年
3位	長岡 千裕	北海道富良野高校1年
	佐藤 彰太	北海道富良野高校1年
	平井 英介	立命館慶祥高校3年
	小松 明日香	滝川市立滝川西高校1年
	飯田 裕架	北海道洞爺高校3年

交換留学生紹介

本年も交流協定校である中国の山東大学威海分校、煙台大学、韓国の大田大学校から、交換留学生合わせて15名を本学に迎えました。語学プログラムを中心に一般科目も履修し、1年間共に学ぶことになります。各大学から1名ずつお話を聞きました。

■大田大学校 日語日文学科4年
白 寅峭（ベク・インチョ）さん

高校の時に日本のドラマに触れ、日本語を勉強してみたいと思いました。これまで3年間日本語を学んできましたが、もっと日本人と交流し、日本の文化も知り日本語を上達させたいと留学を決めました。札幌は寒くてびっくりしましたが、街にストリートミュージシャンがいたり賑やかな印象です。商科大学の学生達ともすぐに仲良くなれました。本を読むのが好きで、

■煙台大学 外国語学院日本語科3年
李 明鑫（リ・ミンシン）君

子どもの頃から日本のアニメが好きで、それが日本語を学ぶきっかけになりました。日中には2千年以上の交流の歴史があります。将来のことはまだ具体的ではないですが、日中間の経済問題、政策なども勉強し、できれば日本の大学院にも進みたいです。中国北部の黒竜江省出身ですので、札幌の気候は過ごしやすいです。サッカーが大

■山東大学威海分校 翻訳院日本語科3年
劉 冬（リュウ・ドン）君

日本と中国は地理的にも近く、歴史・文化・経済的にもとても繋がりががあるので、語学を学ぶ以前から興味がありました。今はもう中国には残っていないような文化を、日本は継承保存していて、そのような伝統文化が魅力的です。ジャーナリストになるのが夢なので、韓国語も勉強していますが、日本だけではなく東アジア全体を学ん

大田大学校からの交換留学生、左から、チョ・ヘリンさん、ユン・ミョンスンさん、ベク・インチョさん、イ・ジンヒョク君、ジャン・ボエムさん、ベク・シニさん



将来は日本語の翻訳家を目指しているので、留学経験を生かしたいです。

煙台大学からの交換留学生、左から、リ・ミンシン君、シン・ルアイエンさん、ジャン・レイさん、ワン先生、ウー先生



好きなので、勉強以外の経験も沢山してみたいと思っています。

山東大学威海分校からの交換留学生、左から、リン・リシさん、ゾウ・ウェイさん、チョン・ビンさん、ウ先生、ヤン・シヨナンさん、マオ・シンツツさん、リュウ・ドン君



でいきたいと思っています。

●成田 彩香（商学科4年）

韓国に来て2ヵ月が経ちました。学期が始まってすぐにいろいろな行事がありました。新入生歓迎会やMT、運動会や留学生同士での交流会など、来て早々忙しい日々を送っていました。中でもMTが特に記憶に残っています。日語日文学科のMTでは10組の班をつくり班対決でゲームや出し物をしました。日本人10人は全員バラバラにされたのですが、気まずさに耐え切れず結局日本人同士でかたまってしまう部分もありました。しかし、このMTが韓国人の友達が増えるいい機会となりました。MTが終わっても連絡を取り合い、一緒に勉強したりお酒を飲みに行ったようになります。そして5月に行われ



留学生同士の歓迎会で(左から3人目が成田さん)た運動会では日語日文学科のメンバーとして競技に参加や応援したりしました。結果はよくなかったのですが、このとき韓国人と日本人がひとつになったことを感じられました。

このように今まで行事が多くてあまり勉強に集中できなかったのですが、これからは期末テストやTOPIK試験に向けて一生懸命勉強したいと思っています!!! ファイトイン!!

Report 6

研究の11月 ■ 伊藤 昭男 教授

「北海道地域観光学会設立にあたって」



5月11日(土)に上記学会を設立致しました。以下にご紹介します。

1.学会の特色

北海道の観光振興を魅力と活力を有した北海道の地域づくりに結びつけることを目指し、学術性を核としながらも研究者・行政関係者・観光ビジネス関係者・市民・学生が考察・連携する「場」としての学会を設立しました。本学会の特色は次のとおりです。

- ・観光という普遍的な現象を北海道という地域の「場」の視点から考察する。
- ・観光が学際性および、理論と実践との緊密なフィードバック性が求められる研究分野であることから「学」だけではなく、「産」・「官」・「住民」・「学生」それぞれの視点から考察できる「場」を形成する（年次学術大会や学会誌にも反映させる）。
- ・コスト・レスな学会運営とする（年会費一律2,000円、入会金なし。連絡手段は原則Email、学会誌は電子版のみ等、運営コストおよび運営事務の煩瑣性を極力回避）。

2.設立総会&記念講演会

①設立総会を5月11日(土)13:30より本学8階開発政策研究所にて開催しました。

司会（細野昌和本学教授）による開会の後、発起人代表の大内東本学教授が挨拶および学会設立趣旨を発表し、議長として「北海道地域観光学会の設立について」と「北海道地域観光学会の規約(案)および運営委員(案)」を提案し、承認されました。その後、運営委

員会が別室にて開催され、代表役員として会長に伊藤昭男本学教授、副会長に中鉢令兒本学教授が選出されたこと、また会計監査・名誉会長（大内東本学教授）・顧問（森本正夫北海学園理事長・北海商科大学学長）の推薦(案)が提出され、承認を得ました。その後、伊藤会長が会長就任挨拶および議長として「北海道地域観光学会2013年度事業計画(案)」を提出し、承認を受けました。また来賓として大崎浩北海道経済部観光局参事（観光戦略）、北山憲武公益社団法人北海道地域観光振興機構専務理事、鈴木恵二観光情報学会副会長（北海道大学大学院情報科学研究科教授）より祝辞を頂戴致しました。報告・連絡事項の伝達のあと閉会となり、参加者による記念撮影を行いました。



左から、大崎北海道経済部観光局参事、北山北海道地域観光振興機構専務理事、鈴木観光情報学会副会長

②設立を記念して記念講演会を同日同会場にて開催しました（時間：15:30～16:30、主催：北海道地域観光学会、共催：HINAS『アジア観光圏における北海道観光産業のあり方に関する研究会』、後援：北海商科大学開発政策研究所）。大内東本学教授を



司会として民族衣装を着用したミャンマー人のミャッカラヤ（Myat Kalayar・写真左）日本経済大学経済学部経営学

科准教授により「ミャンマーの観光産業の現状と発展可能性」と題して大変わかり易い講演がなされ、参加者の皆さんは熱心に聴講されていました。設立総会、記念講演会共に雨の中にも拘わらず各約100名程度の参加者があり、大変な盛況でした。



ミャッカラヤ氏による講演

3.今後の学会運営

学会長に選出された伊藤昭男本学教授の挨拶を今後の学会運営の参考として以下に示します。

「北海道地域観光学会の初代会長という大役を仰せつかいました。とても大役をこなしていける力はありませんが、副会長および運営委員等の役員と協力しながら一生懸命やっていきたいと思います。よろしくお願いします。学会運営につきましては、1) 産学官の方々の賛同者をさらに募ること、2) 産学官のそれぞれの立場で戦略的実践的な研究に取り組む体制を整えていくこと、3) 北海道という全体思考だけでなく、道内特定地域や東アジア特定地域、およびそれらとの地域ネットワーク連携を意識した研究を推進すること、4) 事務作業に煩わされない組織運営とすること、5) 希望をもった地域観光振興を研究していくこと、を考えております。いずれにいたしましても本学会はスタート時点に立ったばかりであり、学会活動を軌道に乗せるには多少時間がかかると思っております。会員の皆様には継続的漸進的に取り組んでいくという認識を共有し、本学会への積極的な支援をよろしくお願いします。私見ではありますが北海道は明治以来、大変な地域発展を遂げ、住みやすい地域となりました。しかしながら、自然環境は一流、経済、観光などの実質的内容はいまだに三流であり、その点において日本の後進地

域から脱却できていないと思っております。今後、地域の衰退が懸念される中、時代の先を行く視点から北海道観光のイノベーションが不可欠であると考えております。会員の皆様と一緒に本学会を通じて魅力ある北海道地域の創造に結びつくパワーを少しでも生み

出せればと思っております。以上、簡単ではございますが会長就任の挨拶とさせていただきます」

なお、今後、年次学術大会（学術発表だけではなく産学官フォーラムのような新形式の発表の場を設ける）、電子ジャーナル（学会誌）の発行、専門委員会として観光連携研究プロジェクトを立ち上げる等について漸次、実施していく予定です。



北海道地域観光学会運営委員会

4.事務局および入会案内

本学会の事務局は北海商科大学開発政策研究所内に置いています。住所と連絡先および入金については以下のとおりです。

〒062-8607 札幌市豊平区豊平6条6丁目10番地 北海商科大学7階開発政策研究所内。
連絡Email: hosono@hokkai.ac.jp（細野昌和）。

■ ■ ■
本学会に賛同される方はどなたでも自由に入会できます（年会費：2,000円、入会費なし）。入会方法は次のとおりです。

- ①上記学会事務局担当者に直接申込む（会費は現金支払）。
 - ②上記学会事務局担当者にメールで申込み、その後、下記学会口座へ振込む（なお振込利用控えが領収書替わりとなります。別途領収書が必要な場合は申し出て頂けると押印領収書をpdfにて送付致します）。
- ゆうちょ銀行口座間の振込の場合
⇒記号：19080、番号：27908891、名前：ホッカイドウチカイカンゴウカカイ。
- ゆうちょ銀行以外の金融機関から振込の場合
⇒店名：九〇八(キョウゼイロハチ)、店番：908、預金種目：普通預金、口座番号：2790889、名前：ホッカイドウチカイカンゴウカカイ。

ゼミ訪問

◆西川博史 教授 コマース研究ゼミナール◆



第七セメスター（4年次）のコマース研究ゼミナールⅣとして開講されている西川ゼミ。学生にとって大学で最後に取り組む、集大成とも言える専門ゼミだ。ゼミ室に西川教授とゼミ生の活力がみなぎっている。

「中国から見たアジア」に焦点をあて、中国人留学生や大学院生も参加し、活発な議論を繰り広げている。

前期のテーマは「グローバル化の進展とアジア企業の将来」です。アジア企業、とりわけ国際化を急いでいるかにみえる中国企業で、西欧で誕生した「グローバル化」という概念の導入が果たして成功するかを、グローバル化の定義まで遡りながら、考察を深めています。

徹底した討論が、西川ゼミの特色です。2時間を越すゼミの初めから終わりまで、学生たちの固定観念をひっくり返すような質問を、西川教授がつぎつぎに繰り返します。学生は、日中2ヶ国語で書かれたレジュメを手に、西川教授の説明を理解できなかったり、異論があれば、遠慮なく発言します。中国人学生も積極的に議論に加わり、グローバル化や国際政治をめぐる中国の若者の本音に、日本人学生は日常的に触れています。



西川ゼミのみなさん

books 先生のオススメ

- ・「中国思想史」溝口雄三ほか（東京大学出版会）
- ・「中国の知恵 孔子について」吉川幸次郎（ちくま学芸文庫）
- ・「中国人の論理学」加地伸行（ちくま学芸文庫）
- ・「倭国伝 中国正史に描かれた日本」全訳注：藤堂明保ほか（講談社学術文庫）

歴史認識は過去の問題ではなく、さまざまな形で現在につながっています。中国や韓国とのあいだで日本が抱える領土問題がその典型です。ゼミでは、報道などを題材に、尖閣諸島や竹島の歴史と現状について話し合うこともしばしばです。西川教授のリードで、中国人学生と日本人学生がじっくりと議論し、多様な視点を共有する貴重な機会となっています。

西川ゼミは、海外の大学と提携し、交換留学制度が充実している本学の特色を体現するゼミといえるでしょう。履修者の後藤高廣君（4年生）は「交換留学で中国に滞在して中国語を集中的に勉強しましたが、中国をより深く理解するためには、歴史や文化に対する研究が不可欠であると痛感しました。西川ゼミでは、留学中は学習しきれなかった部分をじっくり学ぶことで、毎回とても充実しています。ゼミでは中国語が飛びかっけていて、留学の経験を活かせることも嬉しく思います」

日本のアジア侵略と植民地化の過去にたいし、学生の歴史認識を深めることを重視しているのも、西川ゼミの特色です。ゼミでは、アジアの歴史と文化について学びなおし、将来を担う学生が先人の失敗に学び、過ちを繰り返さない姿勢を身につけることを目標としています。

歴史認識は過去の問題ではなく、さまざまな形で現在につながっています。中国や韓国とのあいだで日本が抱える領土問題がその典型です。ゼミでは、報道などを題材に、尖閣諸島や竹島の歴史と現状について話し合うこともしばしばです。西川教授のリードで、中国人学生と日本人学生がじっくりと議論し、多様な視点を共有する貴重な機会となっています。

☆ 2013.4.6 サークルPR

速報!! 5.25 体育祭

[Photo Gallery]



平成25年度 サークル一覧	
体育	軟式野球部
体育	バスケットボール部
体育	テニス部
体育	陸上競技部
体育	フットサル部 (REGISTA)
体育	ドッジボールサークル (HI☆TACHI)
体育	バレーボールサークル
文化	アウトドアスポーツビジネス
文化	ダンスサークル (ドルディップ)
文化	中国語サークル (歓々喜々)
文化	ツーリズム研究会
文化	韓国語サークル
文化	軽音楽部
文化	教育研究会
文化	環境ボランティア部
文化	会計研究会
文化	英語サークル (DOLCE)
文化	吹奏楽部 (北海商科ウィンドオーケストラ)
委員会	体育祭・北海商科祭実行委員会
委員会	サークル連合
委員会	卒業アルバム制作委員会

@学生相談室ニューズレター

「一人で抱え込まずに！」

学生相談室 カウンセラー
小林 美穂子
E-mail : soudan@hokkai.ac.jp

2010年度に北海商科大学に学生相談室が設置されて3年が経ち、さまざまな悩みを抱えている学生さんが来室されています。そもそも、人間、生きていく中で、悩みがまったくない人などいません。対人関係（友人・恋愛・親子など）をはじめ、「勉強についていけない」「お金がない」「就職活動に苦戦している」「人と比較して感じ

るコンプレックス」などなど、あらゆるところに悩みの種は落ちていますね。
大抵の場合は、親しい人に相談したり、気分転換を図ることで気持ちが和らいだり、あるいは、地道に努力を重ねていく中で、それらが解決していきます。ただ、ときには、どんなに頑張っても、思い通りにならないこともあります。そんなときは、「いろいろあるさ」「なんとかなるさ」「しゃあないこと（やつ）もいるさ」と、割り切ってみると、意外と心がスッとラクになることがあります。“世の中、不条理なことがあって当たり前”“いやな人がいるのは当たり前”くらいに腹を括ることができれば、殆どのことはやり過ぎるようになっていきます。
ただ、そうは言っても、「なかなかそう思えな

いから苦しいんです」というケースもあるでしょう。そんなときは、一人で抱え込まずに、相談室の扉をたたいてください。一緒にどうすればいいか、考えていきましょう。まずは、アドレスに予約申し込みの連絡をくださいね。



札幌芸術の森 撮影 Ikuo Sasaki

Info 1 新任教員挨拶・略歴、交換教員紹介

商学研究科教授
杉田 由紀子
すぎた ゆきこ



観光学・観光施設媒体研究を専門とし、近年は主に航空交通と観光地発展過程の関係性について研究を進めてきました。本学では「地域観光振興特殊研究Ⅱ」等を担当します。現代社会では余暇・レジャーの概念が浸透し、観光は個人や地域にとって重要な関心事になりました。観光産業も世界的規模で大きなマーケットに成長しています。一時的な変動はあっても長期的にみれば、今後も発展していく分野です。若い人々には学びを通して、社会を見据える力を磨いて欲しいと思っています。

立教大学大学院観光学研究科博士後期課程単位取得満期退学、流通科学大学サービス産業学部専任講師、助教授、教授、杏林大学外国語学部・大学院国際協力研究科教授、本年4月より現職。

商学科教授
石原 享一
いしはら きょういち



これまでの研究は、だいたい次の3つの分野からなります。1つは、中国の経済と社会です。2つ目は、国際政治経済学のディシプリンと地域研究の視座とを結びつけて平和への方途を探ったものです。3つ目は外務省やJICAの途上国青年招へい事業の講義のために、戦後日本の社会経済発展の経験を検証したものです。本学では、「東アジアビジネス論」(大学院)や「東アジアの動き」、「日本近代とアジア」(学部)などの講義を担当しています。

1977年一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位取得満期退学、1982～95年アジア経済研究所研究員(その間、1984～86年在中国日本大使館専門調査員、1992～93年香港大学アジア研究センター研究員、1993～94年カリフォルニア大学東アジア研究所研究員)、1995年博士(社会学)(一橋大学)、1996～2013年神戸大学大学院国際文化学研究科教授、本年4月より現職。

商学部准教授
佐藤 千歳
さとう ちとせ



2013年春までの3年間、北海道新聞北京支局長として、中国社会の変化、とくに権利擁護運動や宗教活動の最前線に立ち会いました。過去中国社会では目立たない存在だった民衆の草の根の動きに魅かれています。「中国専門家という言葉自体が矛盾である」とも称され、内在的な論理を理解することが非常に難しい中国ですが、中国特殊論に過度に囚われず、中国で進む変化の背景や展望について、ともに考察を深められればと思います。千葉市出身、2000年から北海道在住です。

研究テーマ：中国の宗教、権利擁護運動。担当科目：現代中国論A・B、IT & メディアA・B、東アジア政治思想A・B、コマース研究ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ。

2000年東京大学教養学部卒業、同年北海道新聞入社、2005年中国「人民日報」、訪問記者。2010年北海道新聞北京支局長、本年4月より現職。主な著書・論文：『押井守と黄昏中の日本』『信睿』2013年3月号、『インターネットと中国共産党』講談社2009年。

商学部講師
玉井 航太
たまい こうた



「文化心理学」「社会調査方法論」「地域コミュニティ論」「社会文化ゼミナール」「異文化ゼミナール」の講義を担当しています。専門分野は心理学で、地域コミュニティにおける社会・物理的環境の影響や在日外国人コミュニティにおけるソーシャルキャピタルを中心に研究をしています。

グローバル化と言われる今日、社会の様相や個人に求められている資質なども変化し、一人ひとりがその変化に対応していかなければなりません。そのために大学の4年間という長くも短い時間の中で、世界を見る視点の多様さや広さを身に付けてもらいたいと思います。皆さんの大学生活が有意義なものになるためのお手伝いをしたいと思います。

2005年国際基督教大学卒業、2007年に同大学大学院教育学研究科修士課程修了、2012年同大学院教育学研究科博士課程修了。明星大学人文学部非常勤講師、国際基督教大学教育研究所研究員、本年4月より現職。

交換教員
武 鵬
ウ フォン



中国・山東省臨沂市出身。博士課程在学中、専攻は中日比較文学。訳書に「株価操縦」機械工業出版社(北京、2008年7月)、論文に「母系社会と女性天皇」(北方文学、2012年8月号)、『浮雲』にみられるお勢の女性像(青年文学家、2012年10月号)などがあります。日本は今回を含めて3回目、札幌は2回目です。前の2回はわずか1週間と1ヶ月の短期です。今回は4ヶ月間滞在する予定で、花見や温泉など、いろいろ体験することができると思うと、わくわくしてきてしまいます。仕事の上では先生方や学生たちといろいろ交流することができて、とてもいい勉強になりました。日本の三国志をめぐって研究していこうと思います。三国志に興味のある方とどんどん交流していくことができればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

交換教員
王 輝
ワン ホオイ



王輝です。煙台大学・国際教育交流学院の教員です。1959年生まれ、1980年に煙台師範大学(中国語中国文学専攻)を卒業しました。以来、一貫して中国語教育に従事してきました。勤務期間はすでに33年に達しています。学術雑誌・学術刊行物に20篇もの論文を掲載しましたが、教育の中で得たことから多くの励みを受けました。改革開放後、外国人に対する中国語教育に専門的に従事し、煙台で北海商科大学から来た留学生に教えたこともあります。今年の4月1日に北海商科大学に着任しました。札幌にきた後に、日本の国民の資質の高さを感じ、礼儀正しく、親切でホスピタリティーがあり、勤勉で善良、かつ真摯だと思いました。北海商科大学の学生も礼儀正しく、紀律を守り、賢くて向学心があり、努力家で勤勉だと思います。私に対する北海商科大学の先生方の関心と配慮に感謝する次第です。

新刊紹介

- 1 『カントとアドルノ』
●横田榮一 著
2013年4月10日刊／梓出版社／定価3,800円＋税／ISBN978-4-87262-029-0
- 2 『地域経済の進化と多様性』
●阿部秀明 編著／田辺隆・柳川博・佐藤博樹・伊藤昭男 他著
2013年3月31日刊／泉文堂／定価3,500円＋税／ISBN978-4-7930-0299-1
- 3 『文系学生がまなぶ情報学』
●大内東・細野昌和 他共著
2012年12月28日刊／コロナ社／定価2,200円＋税／ISBN978-4-339-02466-1



Topics 8 スピーチコンテスト・語学検定結果報告

漢語橋の接戦

5月18日、第12回「漢語橋世界大学生中国語スピーチコンテスト(以下「漢語橋」)北海道予選大会」が札幌孔子学院で行われました。本学の4年生中井龍君、野坂来未さん、3年生の竹村航平君、高木郁香さん、2年生の京塚彰君の5人が出場しました。今回も参加者全員が一生懸命練習して本番に臨みました。大会は高レベルでの接戦になりました。大会は高レベルでの接戦になり、最優秀賞には残念ながら手が届かなかったものの、中井龍君は2位に、野坂来未さんと竹村航平君は3位に入賞し、高木郁香さんと京塚彰君も審査員たちの高い評価を受けました。中井君は北海道の代表として、中国政府が主催する「漢語橋サマーキャンプ」に参加する資格を獲得しました。

「漢語橋」及び「漢語橋サマーキャンプ」は、世界中の中国語を学ぶ大学生の語学力や文芸才能を披露する舞台

北海道予選大会表彰式



でもあり、さらに世界中の大学生と国際交流を深めるチャンスでもあります。毎年、各国から多くの大学生が中国に集まり、地域の視察や観光及び文化活動などを体験しながら、社会勉強を深めています。平和で健全な社会を作るために、学生には中国への理解を深め、さらに世界中の若者同士の連携を強めて、多文化交流を盛んにしてくださることを期待します。(蘇林)

韓国語能力試験に最多合格者

4月21日、(財)韓国教育財団が主管する第30回「韓国語能力試験」が行われました。この試験は韓国政府が認定・実施する唯一の韓国語試験で、世界31カ国で同時に行われており、北海道における試験会場は本学が提供しています。本学からは2年生～4年生を中心に35人が試験に臨み、最上級の6級に3人が合格、5級に4人、韓国語を本格的に学びはじめて1年余りの2年生は2級に6人、2級にも10人が合格するなど、これまでで最多の合格者を記録しました。特に1年生の北林育子さんは高校時代に学んだ実力を活かして6級に早々と合格するなど、破格の実力を発揮しました。(水野)

Info 2 2013年度前期公開講座開催

「東アジアの異文化理解と交流・連携」が開催される

北海商科大学公開講座を今回は上記総括テーマで、下記要領にて開催しております。

- 日時：2013年5月25日(出)～7月20日(出) 全5回、10:30～12:30
- 場所：北海商科大学 8階会議場
- 参加対象：一般市民(含む学生)
- 入場無料

本学の公開講座は平成19年度より、前期・後期の年2回で開催し、本年度で7年目となります。その意義は「アジアの時代にアジアを学ぶ」という本学の特色ある教育に照らして東アジアの知的関心を高めることにあります。幸いにして毎回80名程度と多数の参加者があり、多くの方から好評を得ております。今期は、今後一層の成長が予想されているASEAN諸国の一員であるインドネシアおよびタイについての講演テーマも盛り込み、中国、韓国ばかりでなく、より広い角度から東アジアを眺望する内容としました。本講座が単に知識の習得にとどまらず、日本を含めた東アジア諸国間の人々の心



第二回公開講座、パネリストは写真向って左から伊藤教授、渋武氏、北山氏、大内教授



第一回 5月25日(出)	
「日中『和』の文化の差異」	蘇 林 西川博史
第二回 6月8日(出)	
「北海道観光と東アジア」	渋武 容 北山憲武 大内 東 伊藤昭男
第三回 6月15日(出)	
「相互理解手段としての東アジア言語習得」	水野俊平
「中国、1億人の宗教大国」	佐藤千歳
第四回 7月6日(出)	
「インドネシアの社会経済発展と日本の役割」	宮本謙介
「三国志の世界」	武 鵬
第五回 7月20日(出)	
「タイ上座仏教による社会的包摂」	櫻井義秀
「中国の生活と風俗」	王 輝

お問い合わせ先
北海学園北東アジア研究交流センター(HINAS)
TEL.011-841-1108 FAX.011-841-1109
Eメール hinas@hokkai.ac.jp
ホームページ <http://www.hokkai.ac.jp/hinas/>

平成25年の行事予定(6月13日現在)

6/22(国)	海外語学留学保護者説明会(予定)	9/12(国)	夏季休業終了
6/23(日)	第1回オープンキャンパス	9/13(国)	1年次ガイダンス、2年次ガイダンス
7/1(国)	所属学科選考ガイダンス[2年次]	9/17(国)	3年次ガイダンス、4年次ガイダンス
7/3(水)	志望学科届提出期限[2年次]	9/17(国・18日)	1年次履修登録
8/2(金)	前期講義終了	9/18(国・19日)	2年次履修登録
8/3(土)	夏季休業開始	9/19(国・20日)	3年次履修登録
8/6(火)	成績開示開始、成績・採点異議申し立て受付	9/20(金)	4年次履修登録
8/6(火)・7(水)	第2回オープンキャンパス	9/21(土)	北海商科祭(予定)
8/8(木)	成績・採点異議申し立て受付終了	9/24(火)	履修登録訂正日
8/8(木)・9(金)	サークルリーダー研修会	9/26(木)	後期講義開始
8/14(水)～16(金)	全学休業日	9/29(日)	第3回オープンキャンパス
8/28(金)	海外語学留学生出発【中国】(予定)	11/15(金)	後期修学指導面談(予定)
8/29(土)	海外語学留学生出発【韓国】(予定)	11/16(土)	体育祭
9月中旬	所属学科発表[2年次](予定)	11/24(日)	特別入学試験
9/12(金)	前期修学指導面談[卒業延期者](予定)	12/27(金)	冬季休業開始(1/8(金)終了)